

作成日 2019/3/2

表題：A級ライセンス審判講習会

日時：平成 31 年 3 月 2 日

場所：東京 講道館 5 階 女子部道場 講師 大迫審判長

作成者：福井県柔道連盟：

#### 講習内容

国際審判規定の解説及び、現在試験実施中の国際審判規定のルール変更内容の説明講習資料は、添付 平成 30 年度 A ライセンス審判研修会 P D F 参照願います。

初めに、2017 年に導入された新ルールに関して、東京オリンピックまで後 1 年となり、今回は大きなルール改正はありませんが、寝姿勢→立姿勢の判定が統一されていないという意見が多くあり、寝姿勢の明確化が成されました。

また、次回の規定の見直しは東京オリンピックの以降に行われる予定となっています。

また、今回の講習会で使用された動画は以下の URL より 入手できます。

動画 URL <http://refereeusb.judobase.org>

入手方法のマニュアルは、別紙参照願います。

#### 今回の変更内容（注意点は赤文字参照）

##### 1. 返し技の判定に関して

判定基準は、従来同様 どちらの選手も明らかに動作コントロールすることなく、両選手が同時に着地した場合、双方にスコアを与えない。

講習会のポイント、返し技の判定に関しては、投げを仕掛けた選手が、返し技を仕掛けた選手が着地した時点で、投げを仕掛けた選手がコントロールをしているかしっかりと見極める事。（ケアシステムを活用し、しっかりと判断する事）

##### 2. 立ち姿勢、寝姿勢の判断に関して

寝姿勢の定義として、片方の選手が腹ばい、両方の選手が両膝を付いた姿勢以外に、片方の選手が両肘、両膝を付いた場合、それ以降のアクションは寝姿勢となる。

また、立ち姿勢の選手が、上記以外の体制（例 片手、両膝を付いた）の相手に直ちに技を仕掛けない場合「待て」をかける。

##### 寝姿勢から立ち姿勢への変化（移行）に関して

片方の選手が立ち姿勢(両膝を付いていない状態)に有り、もう一方の選手が自信の意思で状態を起こし寝姿勢以外の体制に成った場合、立ち姿勢に移行したとみなし、その後直

ちに仕掛けた技による効果を認めスコアを与える。(参考動画 No28 青スコア)  
ただし、片方の選手が寝姿勢の選手を無理やり引き上げて(例 両膝立ちにし)技を仕掛けてもスコアは与えない

寝姿勢→立ち姿勢の運用は国内運用に関して

昨年は寝姿勢→立ち姿勢の運用は国内の大会で行わないとなっていました、新年度(2019年4月)以降の大会では、国内でも寝姿勢→立ち姿勢の運用が行われます。

### 3. 場外指導に関して

場内で始まった技は、場外に出てもその効果を認めるが、新たに場外から始まった技の効果は認めない(参考動画 No42 場外(ノースコア))

技の攻防により場外に出るケースは反則を与えない。

また、場外指導に関しては押し出しの指導を厳しくとる様にする事

(現在の場外指導の95%は場外に出た方で、押し出しの指導が少ない、柔道競技の特性上相手にプレッシャーをかけることがあるが、場外にでた側が、圧に負けて場外にでたのか、相手の選手により押し出されたのか見極める)

寝技において、攻防無しに場外に出た場合は、立ち技同様場外指導が与えられる。

(参考動画 No66/No67)

### 4. 寝技におけるストレッチ技に関して

締め技において、相手の足(膝より上)を取り、相手のハムストレングスを伸ばす行為は、直ちに待てをかけ「指導」を与える。(参考動画 No69, No70)

### 5. 技の切り替えし、捨て身技の効果に関して

相手を最後までコントロールしているか見極める。手が離れていたならコントロールしていないとみなす。

相手が仕掛けた捨て身技を切り替えしした場合、切り替えしした相手がコントロールしているか、それとも、コントロールせずに相手の上に乗っかっているかを見極める。

(参考動画 No88 青スコア/No92, 98, 99 ノースコア/No101 白スコア)

### 6. ベアハグに関して

今年度からは、相手が覆いかぶさる様に組んできた場合でも、攻撃を仕掛ける選手が片方でも組み手を持たずに技を仕掛けた場合ベアハグとなる。

(参考動画 No144 ベアハグ判定)

### 7. GSの終了条件の変更

変更前:GSにおいて、抑え込みを施している物が、相手に締め技、関節技で参った(落

された) 場合で、抑え込みの時間が 10 秒を超えていた(技ありが確定した)場合逆転を認めない。

変更後：寝技において、「抑え込み」の場合、選手自身が解かない限り 20 秒（一本）まで継続される。ただし、途中で抑え込まれている試合者が締め技、関節技を施し、「参った」または、「落ちた」場合、時間に関わらず逆転勝ちを認め、抑え込まれている試合者が勝利となる。

## 8. 活法に関して

最近の試合で、落ちた選手に対して審判が活法を行った時に落ちた選手に負傷をさせるケースが見受けられたため、正しい知識を身に着ける事を目的とする。

大規模な大会でドクターが居る大会では基本、ドクターに活法を行ってもらうが、ドクターが居ない大会は審判員が活法を行う。

活法には「総括」「誘活」「襟活」などがあるが、安全面を考え「総括」を推奨する。

### 「総括」を行う時の注意点

仰向けの場合、手足を伸ばし、肋骨より下の腹部より角膜を押し上げる様に「総括」を行う。(注意：肋骨に負荷がかからない様に注意する。)

うつ伏せの場合、無理に仰向けにせず、体の下から手足を出し肋骨より下の腹部側面より、角膜を押し上げる様に「総括」を行う。(注意：肋骨に負荷がかからない様に注意する。)

うつ伏せ状態で、手足が体の下に入り活が入らない場合は、仰向けにして良いがその時の注意点として、体の下にある手の方に体を回す。(外側に出ている方向に回すと、肩に負傷を与える可能性がある。) また、頭部にダメージがある事を考慮し、極力頭部が揺さぶられない様に配慮する。